

(様式第 1 号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和 7 年度第 1 回芦屋市社会教育委員の会議
日 時	令和 7 年 5 月 2 6 日（月） 午前 1 0 時 0 0 分～ 1 2 時
場 所	北館 4 階 教育委員会室
出 席 者	議 長 今西 幸蔵 副議長 押谷 由夫 委 員 杉山 はるみ 委 員 新宮 優子 委 員 鹿島 圭子 委 員 浅野 晋司
事 務 局	企画部長 柏原 由紀 国際文化推進室長 田嶋 修 教育部長 萩原 裕子 社会教育推進課長 渡邊 一義 社会教育推進課 海士部 香苗 社会教育推進課 川原 智夏
会議の公開	☐ 公開 ----- ☐ 非公開 ■ 一部公開 会議の冒頭に諮り、出席者 6 人中 6 人の賛成多数により決定した。 〔芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の 3 分の 2 以上の賛成が必要〕 <非公開・一部公開とした場合の理由> 補助金の審議について、公平公正な意見を求める必要があるため、一部公開とする。
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員の紹介
- (4) 議長、副議長の選出
- (5) 議題
 - ア 他の委員会、協議会の委員、役員の選出
 - イ 中学校部活動の地域展開について

- ウ 社会教育関係団体補助金について
- エ 社会教育関係団体公募提案型補助金の審査について
- オ 令和6年度 社会教育関係団体の登録状況について（報告）
- カ 令和7年度兵庫県社会教育研究大会分科会について
- キ 今後の日程について

(6) その他

2 提出資料

- (1) 【資料1】 芦屋市社会教育委員等の名簿
- (2) 【資料2－1】 芦屋市の部活動の位置づけについて
- (3) 【資料2－2】 芦屋市部活動の地域展開について
- (4) 【資料3】 社会教育関係団体補助金一覧
- (5) 【資料4－1】 芦屋市社会教育関係団体公募提案型補助金交付要綱
- (6) 【資料4－2】 芦屋市社会教育関係団体公募提案型補助金交付対象事業の前期募集要項
- (7) 【資料4－3】 令和7年度 芦屋市社会教育関係団体公募提案型補助金実施スケジュール
- (8) 【資料4－4】 令和6年度 公募提案型補助金交付決定団体及び実績
- (9) 【資料5】 社会教育関係団体 登録状況
- (10) 公募提案型補助金申請資料（非公開）

3 議長・副議長選出

芦屋市社会教育委員会議規則第2条第1項に基づき互選により、議長に今西委員、副議長に押谷委員が選出された。

4 審議内容

<今西議長>

議題1、他の委員会協議会の委員役員の選出についてということで事務局の方からご説明をお願いいたします。

<事務局：川原説明>

<今西議長>

ただいま川原さんから阪神南地区の社会教育委員協議会の役員、副会長と会計監査についてご提案がありました。

異議ございませんでしょうか。

それでは事務局のご提案の通り私が議長、会計監査に押谷先生ということでお願いしたいと思います。

それでは3番目の中学校部活動の地域展開につきまして、事務局からご説明ちょうだい

したいと思います。

<学校支援課長：浅田より説明>

<今西議長>

ただいま事務局からご説明いただきました。

今のご説明に対しまして、先生方からご質問ございますでしょうか。

ご質問・ご意見ちょうだいしたいと思います。

<鹿島委員>

地域移行について、阪神PTA協議会の方でも阪神間での地域移行の進み具合だとか、いろいろお話をさせていただいたり、県の方にお話を持っていったりということで、いろいろPTAの方でもちょっと動いているような形ではあります。

令和8年度となっていますが、国というか県としては別に8年度でなく、13年度ぐらいまで延ばせるというお話があったりしていますけども、これは8年度絶対やらなきゃいけないという形で芦屋市は動いていると思いますが、期間があと1年しかない状態の中、今から地域クラブを選出してという形で動けるのかどうかという不安もありまして、やるということに対しては賛成ですけども、もう少ししっかり固めてから動いた方が、保護者の子どもたちも迷子にならないのではないかなというふうにはちょっと感じております。

今中学校1年生に子どもがいますが、そのお母さん方が今回入部するにあたっては来年には無くなる、みたいな話で、もう悪い方向にしかいってないので、ちゃんと行き先が少し見えるような形を保護者にもしっかりできるような形でしていただきたいと思いますし、猪名川町の方ではもう今年からスタートということなので、もともと学校用のバスがあるのでそれで送迎ができたり、自転車と言ってもかなりこちらだと山手のほうまで上がっていくのも、山手の方が下まで降りてくるのも大変だと思うので、そのような取り組みもできればというふうに思っていますし、今回のことは国がというよりも市町村に投げかけているような状態なので、財政のこととかも市にお任せというふうには聞いているので、どこまでの補助金だとか対応できるのかなというところもちょっと気にしております。

<今西議長>

いくつか問題点のご指摘がありましたが、一括して先生方にご意見伺った後で事務局の方からご回答をお願いしたいと思います。

<新宮委員>

大まかに大きな流れは教えていただきました。

何年か前からいろいろなお話をいろいろなところで聞いておりまして、コミスクの会議でもいろいろ出ておりました。

我が子も大きくなっていますけれども、部活動を2人とも娘も息子もしておりました。今10何年たって、今の親友がやっぱり中学校のときの部活動友達、やっぱりすごく一番大事な友達になってそれはたまたまだったかもしれませんが、そういうこともありまして、やっぱりすごく意義のあることだなあと、部活動というのはすごく大事ななと思っています。

昨今の子どもたちのSNSの状況とか見ましたら、部活動に入らない子、安易といいますか何もしたくないとか自由な時間が欲しいという考えもありますけれども、やっぱりそっちに行くと人とあまり交わらないとかSNSの方に走るとか、スマートフォンをずっと持っているというようなことをちょっと想像したりすると、やはり部活動の必要性もすごく大事なものがあると思います。

同じような課題が出ていると思いますけれども、一番懸念されるのが指導者の選出ですよ。コミスクの方にも、最初のころにまずはコミスクからみたいな感じで、指導者がいないかというアンケートも数年前にありました。各クラブの方々にもアンケートを市の方からだったと思いますけれどもいたしまして、依頼があったらお引き受けできるかみたいなアンケートが最初の頃にあったのですけれども、なかなか小学生と並行して中学生のちょっと本格的な子どもたちを同時に教えるということの難しさ、それから、どうしても時間が、指導者の方が現役の方、働いてらっしゃる60歳65歳以下の方ですと、中学生まで教える時間があるのかとかですね。

またハラスメント的な研修も必要だなという話もよく出ておまして、昔と今は指導の方法も違うということで、その辺の課題が結構大きいかなというふうには感じておりますが、移行することは先生方の働き方改革という意味では必要なことだとは思っていますので、できるだけいい形でご協力ができたりご意見が出せたらなというふうに思っています。

<今西議長>

それでは少しまとめて事務局の方に投げかけますが、鹿島委員の方から1つは今後のスケジュールですが、拙速はいかがなものかということだと思います。それから、先が見える形にして欲しい、どうなるかということですね、それはわかって欲しい。

それから猪名川の場合はバスの送迎があるのですか。芦屋の場合は、山手と海の方と随分と高低差もありますしそういったこともどうかということ。

それから補助金の問題を質問されました。

新宮委員から部活動の評価、友達ができて輪になって集団ができ、対人関係ができるという点で、大変良い取り組みであることとか、或いは現在の日本の課題として働き方改革が必要だということもおっしゃいました。

しかしながら一方では悩みとしては、指導者の問題をご指摘されました。

私の方で簡単にまとめましたが、事務局の方から今のことについて、できる範囲で結構ですからお答えください。

<学校支援課：浅田>

3ヶ所、事務局の方数名来ておりますので、また補足を加えて今からご説明があると思いますが、私の方でまず説明をさせていただきます。

まず、今回の芦屋市の進め方というのは先ほどの説明の中で、保護者説明会を令和6年の12月に行っていますが、検討会議や推進会議を行っている中で出た意見としまして、1点目は、関係者の方に説明をきちんと差し上げることだにご意見がありました。

もう電話が鳴り響いている中で、私たちの活動はどうなるのだっていうのが、不透明な中では仕方ない、先行きや見通しが立てられないということで、まずスケジュールのほうをきちんと設定することによって、例えば3年後4年後の話になると、各団体の方が準備とか見通しが立たないのではないかとということもあつたりします。

まず阪神チームは、阪神各市町の担当と私たちが随時連絡をとらせていただいて連携をさせてもらっていますけども、芦屋というよりは阪神の広域的な地域で、地域移行をどういったスケジュールで進めていくのかということ踏まえまして、まずスケジュールを固めていき、やはり明確に団体の方にも、こういった時期でこういったものをさせていただきたいというのを、事務局から方針や要綱、これはまだ改めて定めさせていただきますが、お伝えをするというふうな手法が適切だということが、今事務局で持っている答えです。

その中で先ほどの説明とかぶるかもしれないですけども、例えば芦屋は西宮と神戸の間で囲まれた市でありまして、これがまだ関係者とも協議をする段階ですけども、地域を飛び越えた形での活動と想定した際に、神戸の子や西宮の子と芦屋の子との差異があってもいけないということもありますし、それこそ精中の子にとってみれば、隣の市と隣接しているわけですから、そういうところ踏まえて近隣市町の方とスケジュールを合わせ、今スケジュールが拙速という言葉もあつたのですけども、順々に準備を整えていって、子どもたちに案内を差し上げるというのが最適な形であるかというふうに考えておるところです。

猪名川の話も聞いております。

その中で他市町の進め方を振り返り、これがちょっと難しかったということも今関係者同士で共有していますので、そういったことも踏まえて芦屋市としての提案ができるのではないのかなということで、重々に慎重審議も含めまして事務局の方で進めさせていただいているところにはなります。

補助金の方は、おっしゃる通り子どもたちの負担にならないように働きかけをしていきたいのですけども、生憎これは市でというよりは県、国、全体的な動きで考えることとなりますので、そういった課題の投げかけというのは、私たちの方からもさせていただいているところではあります。

あと部活動の評価についてですが、委員がおっしゃったように、先ほどアンケートからも子どもたちに友達関係ができたという回答が一番あつたように、そういったことも踏まえた上で子どもたちの場所を用意して、そこで人間関係を築くことができるようにすれば学

校の枠を超えた、例をあげると個人的な話になりますけども、当方の息子もちょうど昨日神戸の子と出会って早速仲良くなっているということもあって、今の子どもたちはこういう繋がり方をするのだということを目の当たりにしました。部活動としての長い間の積み重ねもあったので、そういったことは地域クラブの皆さんとも子どものニーズという形で共有して進めさせていただくというところが必要ではないかと思っております。

あとは最後、指導者についてです。指導者につきましては、推進会議の中でも指導者の方に質を担保するというのは、とても大切なことだという意見をいただきながらも、そのハードルを高めすぎたら逆にもう指導者になっていただける方がいないというところになりますので、今その指導者に資質については、安心安全に子どもたちが活動していくということを第 1 条件といたしまして条件を定め、指導者の募集についても考えていきたいと現在事務局の方では整理をして進んでいるところです。

<今西議長>

今事務局からお考えを伺いました。それを踏まえて、先生方からもしありましたらどうぞ。

<新宮委員>

私のイメージが芦屋市の 3 つの中学校がまざって、山手のほうに何とかクラブがある、この中学にはいきたいクラブがあるあるみたいなそんなイメージだったのですが、今のお話だと西宮のどっかとくつつくという、市外のクラブにも行くような、もう本当にお稽古事という形になるという感じですか。近隣市と足並みそろえるということは、近隣市に行きたいクラブがあればそっちに部活動でいくということを考えていらっしゃるのですか。

<学校支援課：浅田>

基本的には今私たちは芦屋市の子どもを考えていきますので、芦屋市の子どものスポーツ・文化・芸術活動、まずは充実を図っていくと思うのですが、どうしても地域限定になると、近隣にいいものがあるけどいけないという制限を作ることがどうかというところもございますし、まだこれは事務局案段階で、どういった形で構想を作っていくかというのがあるのですが、今いろいろなところからヒアリングをしていましたら、例えば市の中で確保できない地域でも、他市さんのこの地域と結びついたら、指導の機会を得られるだろうというふうな考えをお持ちいただいたところもありますので、そういうところを柔軟に考えつつ、方針に反映させることができればいいのかなというふうには考えておるところです。

ただ原点に戻りますと、やはり私たちは芦屋の子どもたちのことを第 1 に考えていきたいと思っておりますので、その点も本筋として大切にしたいと思います。

<今西議長>

今、浅田課長からご説明いただきました。

私からの意見ですが、高等学校の事例なのでちょっと当てはまるかどうか、もちろん問題があること前提ですが、スポーツ系の部活の場合部員が足りない。そこで、例えばある県と県境を越えたある県は、近いですから、合わせて一部というケースがあるのです。広域的になる傾向が高校ぐらいではあります。

それが中学校ぐらいのときはどうだかという問題がありますので、また別の問題だとは思いますがね。そういった意味で、広域性ということも考えなきゃいけない時代に来ているのかと私はそう思っています。

<押谷副議長>

これは課題として国から来ておりますし、実現しなきゃいけないのでしょうけれども、ただアンケートの結果を見ていますと、生徒の方は現状でかなり満足しているわけです。先生も、先生のアンケートないけれども、不満かという顧問で関わっていてやりがいを感じている先生もおられるかもしれないです。基本的には働き方改革で、それを地域展開していこうというわけですね。本当は皆さんのご意見をうまく聞きながら移行していかないといけないのだけれども、もう結論ありきみたいな形で進んでいますと、なかなか難しいところがあると思うのです。今の案ですけども、おそらく時間に間に合わせないといけないからいろんな人に頼んで指導者になっていただいと協力体制を創ることですけども、ただ一番大切なのはさっきも出ていましたけど、その指導者が本当に十分な人なのか、十分な指導していただけるのでしょうかということ。要するに単に応募していただく人に、ありがとうございますじゃなくて、さらにそのための免許というか資格みたいな形でこういうことでお願いしますみたいなものを考えたりされていると、保護者の方もまた安心できるかと思います。そして関われる方にもそうかこういうことをしっかりやらないといけないのだなという意識がでできます。ただそれを最初から言ったらもう応募しないということになるかもしれませんので、段階を追って考えなきゃいけないかもしれません。とりあえずそれを実行するというのを考えないといけないけども、もっとその先の制度的な仕組みというのを見据えて、何か考えていただいていると思うのですけども、そういったところが見えるようにしていくといいのかなと思いました。

それと、どういう部活動やったらいいのかということでもありますけれども、子どもたちはいろいろ言ってきますけれども、市としてどうでしょうか。

私は、社会教育とかやっていますから、やはり子どもたちがもっと地域社会に関わっていただく、コミスクというのはまさにそういう形でやっていたわけですけども、この調査で見ると子どもたちはどうでしょう。自分のやりたいものが何かいろいろ出てきますけど、例えばみんなでこの芦屋市のよさを探求して、そういったことを発表してみたりとか、もっとボランティア活動的な形で、日曜日にみんなが集まってボランティア活動してみたり、中学のみんなと一緒に集まって地域の皆さんと活動するとかですね。

子どもたちのニーズとか大切ですし、既存の部活動も大切です。またこれがスポーツ課で推進していますから、やはりスポーツ振興、生涯スポーツという視点も重要なことですが、なんかもっと地域へ関わってこの地域のよさをみんなで発信していきたいとか、そういったこと、すごくコミスクの伝統を生かしながら、芦屋ならではのプランができたらいいのかなと思っているのですがいかがでしょうか。それを進めているわけじゃなくてそういうプランも構想しながら、とりあえずこういうところから取り組みましょうという形がどうなのでしょうかというところです。

<今西議長>

押谷委員からとても貴重なご意見いただきました。事務局と一問一答じゃなくて、先生方からどうぞご意見ください。

押谷先生のお話、私は大変参考になりました。

確かに地域活動ということで、ボランティアとかそういったことを学ぶ、ちょっと難しい言葉なのですが、ボランティア学習って言葉があるのです。これボランティアのあり方と活動について学ぶ学習をいいます。実際にボランティアは社会人になってからなんです。子どもがやっぱりやることじゃない。だけど、そのための準備です。それが、そういったことがあってもいいのではないかってことおっしゃいました。

それから地域の文化です。芦屋のように、歴史とかいろんな意味で文化性の高い、日本でもトップクラスの文化性の町ですので、そういったことを学ぶとかいいなと思いました。ただ、子ども達に押し付けられませんので、そこをどううまく持っていくかという難しさはあるのかなとは思っています。

私の感想ですけど、先生方からどうぞ。ご感想、ご意見を含めて、よろしく願いいたします。事務局もいかがでしょうか。

<学校教育改革推進室長：山川>

ご意見ありがとうございます。

もともと部活動の地域移行という表現で進めて参りました。

つまり、今の部活動が移行する。部活動の指導主体が、学校から地域の方へ変わるようなイメージを抱かれる表現だったのですが、それが地域展開という地域に展開していくという表現に変わって、我々もその表現を使わせていただく形になっております。やはりこれは部活のいい部分というのは当然引き継いでいきたいとは思いますが、部活をそのまま指導者だけが学校の先生から地域の方に代わってそのまま移行するというよりは、新しい形の活動みたいなものというような形で今後展開できればというふうに我々も強く考えています。

当然今やっている活動で、今西先生もおっしゃっておられますけど、例えば普通の運動部でチームが組めない。それが3中を合わせるとチームが組めて、やっぱりそういう試合とい

う喜びとかというのもつくれるというのも、この地域展開の1つの価値というか、値打ちがあるかと思いますし、あと今ボランティアというお話もあったのですが、いろいろその子どもさん今の部活動にないようなメニュー、例えばお料理的なことをしたりとか、実際にこれが活動としてできたりするかどうかわからないけど、eスポーツであったりとかいろんなメニューで、その中に例えばそういう地域活動的なボランティアであったり、例えば芦屋の歴史文化を知るような活動というのも指導したり教えたいというような方で手を挙げてくださるような方がいらっしゃれば、ぜひそういうのも1つの活動として成り立つものと思っておりますので、展開ですので、我々もこの先どういう形で展開していくのかという不安な反面、楽しみとかどういうようなメニューで生徒の皆さんにご提供できるのかというところで募集をさせていただく中で、広くいろんな形で手を挙げていただきたいというふうに思っております。

形が変わるということで、今後皆様にはご説明させていただきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<押谷副議長>

何を目指すかというのはいろいろありますけれども、一応生徒の立場で考えたときに、今参加している人が80%、それを結局100%ぐらいにしたいところでしょうか、或いは80%を維持したいということでしょうか、或いはもっと少なくなってもいいという感じなのでしょうか、どうなのでしょう。

やっぱりできるだけたくさんの方が部活動に参加して、豊かな人間形成に資していけるようにということですよね。

そうすると何となく今の風潮からいったときに、いろんなところに集まってだと、もっとこういう技術を身につけたいとか、専門的なものを求める人たちがおられて、なんかあそこ行きたいけど僕はいけない、私はちょっといけないかなという人が増えてくるような気もなんとなくするんです。

だから、そういう人たちをどう参加させていくか、そのあたりをちょっと考えていかないと二極化してきて、結局部活動をやる人が少なくなってくると、本来の目的と違ってくのかなと。今言っていたように、地域展開という形で、そこは地域の人も関わっていただいて、これだったら私も指導とか一緒にできるよということがあったり、親子で何かするとか、コミスクでいろいろ関わっていただいている人たちが指導者になってやっていたりとか、などを考えていかないと、部活をやる人も関わる人も少なくなっていくのではないかと、そんな危惧を持つのですけどいかがでしょうか。

<今西議長>

危惧があるというようなこと、難しい問題ですね。

<新宮委員>

今、コミスクを長年かわらせていただいている中で、その部活動のイメージがちょっと私にわからないのが、今コミスクの指導者の方は大半がボランティアです。

夏休みの暑いときにコーヒーを出すか出さないかぐらいの、お母さんの負担を考えていたぐらいのところ、無償で親御さんだったりOBの方だったりというような形でされている。少しは謝礼を出してらっしゃるかもしれませんが、それを仕事とされていない方が大半コミスクで指導されています。

先ほどから事業所というふうな言葉がありましたけれども、ちょっとイメージがどこかの体操クラブとかちゃんとした会社といいますか、スポーツの会社みたいなところに委託するような部分もあるのか、地域で本当に無料で、子どもが好きだから一緒に何かしようというようなイメージとすごく分かれるのかとか、その予算がどれぐらい出るのか、今までボランティアの方にも多分多少は報酬が出るとは思いますけれども、何かその辺のイメージが結局お稽古ごとになる、強いところはお月謝も高い。

お母さんが関わらなくていい、お茶当番しなくていいけれども、それはクラブチームであったりします。野球でいいますと中学校の部活で軟式野球をやっていた子がいて、クラブチームで硬式やっていく、中学になるとパッと分かれるんですよね。

本格的にやりたい子はこっち行く、あっち行くというのがあるのですが、その辺が部活動としてクラブチームにみんな行くのか。

あと、その保護者の負担です。すごく考えるのが学校の部活動は多分、ある程度安いのではないかと。月謝といいますか、経費が。だけどそれがお稽古事を幾つも習うとなると、本当に月謝が何万円、月1人。兄弟だと数万円みたいな、その辺の考えです。どれぐらい市が負担、国が負担、県が負担されるのか、保護者が安心して部活動として習わせられるのかみたいなところをちょっと考えます。

さっきおっしゃった押谷先生の考えで、ボランティア的に地域と関わるという意味では、今芦屋市のコミスクが9コミスクありますけれども、各コミスクで年間にいろんな行事をしています。うちの浜風コミスクなんかも夏休みの夏祭りに、中学校の部活動のブラスバンドさんが来てくださって演奏してくださる。それを見たちっちゃい子たちが、中学校の部活にいずれ入りたいとか、そんなイメージで、地域とともに動いている部活動もたくさんあるんです。

そういう意味では、そういうのを活かしておきたいというのもありますし、逆に市の中に1つしかなくても、何かそういうボランティアといいますか、他の地域のところにも出向いていけるようなクラブ活動みたいなのも理想だというふうにおっしゃったように、理想としては地域とともにあるクラブ活動、子どもたちを地域で育てるというイメージの部活動というのが、表面に見えると安心かなというふうに思いました。

<今西議長>

今おっしゃったように、地域に根差すというところでとても大事なキーワードだと思います。要するに部活動というのは、学校教育の中で非常に幅広い教育的な営みだと私は思っています。例えば、専門家がいらっしゃいますが、道徳性の涵養とか社会的スキルとか、そういうものを高めることができる。

一方スポーツクラブになったときはどうなのか、今おっしゃったようにちょっと違うかなという、地域という観点が少し弱くなるかなあという感じは持つんですけどね。

そんなことを含めて課題はたくさんあると思いますのでいかがでしょう。

先生方のご意見ください。

<学校支援課：浅田課長>

先ほど事業所というところの話を私がしていましたので、まずそこをお伝えしたいのですが、この委員会の中で個人として持つには負担が大きい。

指導だけでなく運営というところも負担が大きいという意見も出ていますので、それを踏まえた形で募集をする際の要件というところを定めさせていただこうと思っております。ただ、事業所と言ったらどうしても会社とかで、そういったスポーツクラブの企業さんを想像されるかもしれないですけど、地域の社会教育団体の方も可能だと思いますし、少しその限定ではなくて大きくというところでは、事業所と言ったらイメージが、例えば企業さんだけで留まってしまったらと思って、まずこの場で訂正させていただきたいというところが1点です。あと満足度で85%の中のをどう進めていくかという問題提起がされていると理解したのですが、部活動の満足度をはかった問いのうち、大変満足しているのが35、満足しているが50数%というところの部分の85%という回答になりましたので、子どもたちにとって現状が最適であるかもしれないですけども、ただ今後の見通し、子どもの人数が減ったりとか、今後の時代背景の違い、芦屋市教育委員会が進める探求的な学びであったり、子どもの問いにフォーカスをあてた学びというところも進めていこうと思っている中で、この活動自体も現状の部活動でいいのかという部分について、振り返る必要があると考えています。子どもたちの希望を聞きながら、子どもたちにとっていいものは何かというところを模索していくというところが、今回、鍵になるのではないかと考えておりますので、それを踏まえていただけるとありがたいと思っております。

<今西議長>

次に大きな議題がもう1つありますのでそろそろ打ち切りたいと思いますが、何かどうしても言っておきたい方からご意見ください。

<押谷副議長>

社会教育で感じるのは、ヨーロッパは、いわゆるクラブ活動とかその地域での活動が発展

しているのに、日本の場合は発展してないですね。

そういうことを地域展開していこうと思ったときに、部活動に関わる社会教育団体というのを、芦屋市でバックアップしていくとか、引き受けていただけるような、或いは発展していただけるようなそういう人材、或いはそういう団体の養成というのを意図的にやっていかないと、なかなか難しいような気がするのです。社会教育推進課としてそういう部活動を指導できるというか、関わる団体を作っていくとかも展開していてもいいのではないかと思います。

<今西議長>

おっしゃる通りで、部活動に関わる社会教育関係団体育成しなさいというご意見と同時に、社会教育に関わる指導者を育成しなさいと、先ほど山川さんの方からも手を挙げる人がいるとおっしゃっていました。

そういった方を育てるのも我々の仕事、社会教育委員の任務です。

そういう意味でちょっとつらいなという思いを持って発言しているんですけどもね。みんなでそういった人を育てて見つけて、そして時には団体になっていただく。

そういうことでよろしいでしょうか

それでは議題の3、社会教育関係団体の補助金についてということで、川原さんからご説明お願いいたします。

<事務局：川原説明>

<今西議長>

何か今のご説明につきまして、ご意見、ご質問ありましたらどうぞ。

438万500円ですか。これが補助金の交付予定額だということでございます。

よろしいでしょうか。では、この議題終わらせていただきます。

次に、議題4、社会教育関係団体の公募提案の補助金の審査になります。

先ほども申し上げましたように、この審査は非公開ということにさせていただきますので、よろしくご協力お願いしたいと思います。

—会議非公開—

—会議公開—

<今西議長>

採点結果は議題の後で報告いただきますので、それまでは会議は公開になっています。それでは議題5に入らせていただきます。

令和 6 年度の社会教育関係団体登録状況について、事務局からご説明お願いいたします。

<事務局：渡邊課長説明>

<今西議長>

今のご説明につきまして、何かご質問、ご意見ありましたらどうぞ。
いかがでしょうか。特にございませんか。

私も実はいくつかの自治体の委員になっているのですが、この公募団体については登録制ということをきちんとやっている自治体は、実は芦屋市だけです。

他はいちいち聞いて、これ生涯教育関係団体になっているの、なっていないのという、補助金をもらう要件がわからないというのが結構よそは皆そうです。

その点すぐれているというか、だから私、芦屋市の要項見せてちゃんとやっているってことを言ったことがあります。

そういう意味では、団体の審査は何月でしたか。

<事務局：渡邊課長>

6 月と 12 月です。

<今西議長>

そういう意味ではきめ細かな行政が行われていると思って、これはかなり高く評価します。

<新宮委員>

12 月、6 月、12 月と登録されている数字が変わるというのはどういう、増えていく一方かと思ったのですが、減るというのはどういう団体さんが減るのですか。半年で。

<事務局：渡邊課長>

まず、令和 6 年 4 月 1 日時点の登録数は 225 団体ありました。

令和 6 年 10 月 1 日時点の登録者数が 187 に減っているのですがけれども、10 月 1 日時点の登録数というのが更新の時期でございました。225 から 187 に減った理由といたしましてはコロナの影響で活動数が減って、人が集まらなくなってしまった団体が増えたというふうに思っております。

私は、コロナ禍に上宮川文化センター長をやっております、コロナで活動自体がなくなってしまうと、そのままもう部屋を借りることがなくなって、いつも見ていた方が借りなくなっていました。コロナの影響で、あとは高齢者の方が多いですのもう必然的に人数が減ってしまっていて、団体数が減ってしまったのではないかとこのように推察はしております。

ます。

<新宮委員>

団体自体が消滅もしくは辞退される、社会団体としても登録しない状態というところが増えたということですか。

<事務局：渡邊課長>

また活動が再開されれば、申請があるだろうというふうには思っております。

<今西議長>

ご意見ございませんか。

ついでに申し上げておきますと、文部科学省から表彰された奈良県の社会教育関係団体が
多い町があります。その数が、200 ぐらいです。芦屋と人口規模を考えたらよく似ています。
そうしますと、今 225 とか 190 についていますね。

非常に熱心な活動がやられている。全国のトップクラスかなというふうな見方を私はし
ています。ちょっとこれ余談ですが、知つといてください。非常に、そういう意味では住民
が頑張っているいろんなことをやっておられるというふうに感じるべきだと思います。

ご質問、ご意見ないようでしたら次に行かせていただきますがよろしいでしょうか。

それでは、令和 7 年度の兵庫県社会教育研究大会の分科会について、事務局からお願いし
ます。

<事務局：渡邊課長説明>

<今西議長>

それでは、議題 7 今後の日程について、お願いいたします。

<事務局：渡邊課長説明>

<今西議長>

先生方で会場が多分尼崎市内だということを想定していただいて、何かこんなこと研修
を受けたいということがありましたら、事務局に言ったらいいのですね、よろしくお願いい
たします。

特に何か認定についてご質問ございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、会議を非公開にさせていただいて、先ほどの結果を報告してもらいたいと思ひ
ます。

—会議非公開—

—会議公開—

<今西議長>

それでは非公開を解除いたします。

本日の議題がこれですべて終わりました。皆さん、どうもありがとうございました。

事務局の方にお返しいたします。

<事務局：川原>

それでは皆さんありがとうございました。

(6)その他については特にございません。

本日は、長時間お忙しい中お集まりいただきましてどうもありがとうございました。